

6 先進園の協力

園独自の評価項目を作る過程は重要な部分ですが、園単独の取り組みでは、評価項目(指標)が偏ってしまうことや、適正な自己評価に結び付かないことも予想されます。自園での取り組みを再確認するために、地域性や規模の異なる横浜市・ゆうゆうのもり幼保園(渡邊英則園長)にご協力頂きました。

ア) 方法

実施依頼前に、園内委員会・運営委員会を開催して自己評価項目について再確認し、質問の意味がわかりづらい項目や不必要な項目を整理しました。特に守秘義務については全職員に共通する項目なので「保育者の資質」から「保護者への対応」へ移動しました。「地域における子育て支援」についても、中項目を追加・変更しました。

9月9日、訂正した自己評価チェックリストにて自己評価の実施依頼しました。

10月20日にゆうゆうのもり幼保園から、結果を分析・項目毎にまとめた詳細な報告を頂きました。再度、実行委員会(ゆうゆうのもり幼保園参加)・運営委員会・園内委員会を実施し、評価項目と記述項目の改定を行いました。

「評価項目の点数自体はあまり意味がない」

「評価項目の点数より、自分で考え、出来ている・課題と思うことの記入が重要である」

「保育者と子どもの関係だけでなく、クラスとしての集団を育てるには子ども同士の関係も大切である」

「特別支援の子どもたちへの配慮」

「地域性や園の特色を確認する項目があるとよい」

等のご意見をもとに、評価項目を再検討することになりました。

また、自己評価を活かすポイント(具体例を書き出しイメージ化すること：自己評価した後、全員で前向きな話し合いをすること等)もご指導頂きました。

イ) ゆうゆうのもり幼保園実施自己評価シート

ゆうゆうのもり幼保園の自己評価で実施した自己評価シートは、次ページ以降をご覧ください。